

国土学事始め



大石久和

国土技術研究センター理事長

中国は、このような地震や洪水などの自然災害の経験を豊富に持っています。大災害と政治の有り様を結びつけるような考え方も昔からあります。中央アジアの乾燥地帯から連なる大陸国ですから、異民族との度重なる紛争や戦争による大量殺戮の経験があるうえに、自然災害によっても

厳しい自然条件を克服してこそ

多くの人が死に、苦しんできた歴史があるのです。

中国やわが国は、自然災害に苦しめられ、歴史的にも多くの命を失ってきましたが、現在の世界文明を作り上げた西欧諸国には、その経験がありません。地震といえ、チリやトルコ、カリフォルニアでも大地震が発生して

いるので、世界中で起こっているような印象があります。ヨーロッパではほとんど起こっていません。

モスクワ、ベルリン、パリ、ロンドンといった諸都市は有史以来大きな地震を経験していません。これらの都市をサイクロンやハリケーンが襲うこともありません。とい

うことは都市を構成する建築物や橋などの構造物の設計において、地震や強風を考慮に入れる必要がないことになりました。

耐震設計偽装事件がまだに尾を引いています。この事件で明らかになったように、地震力を考慮するか否かが、建物の価格を大きく左右

します。あの事件では、少し割り引いただけでかなり安くなったのですから、これをゼロにすれば、どれほど安くビルや橋を造ることができるでしょう。

さらに、先ほどの都市には、いわゆる軟弱地盤がありません。わが国では東京や大阪など都市のほとんどが軟弱地盤上にあり、ビルを建てようとすると長い杭を打たなければならぬのですが、彼ら地ではまったくといっていいほどその必要がないのです。

厳しい自然条件を嘆くのではなく、これを克服して、努力して使いやすい国土を後世に残していきたいものです。この厳しさゆえに、優れた勤勉性を身につけてきたのですから。